



<p>新規就農者の素顔</p>  <p>氏名：山城陽一（やましろよういち） 住所：三木市吉川町長谷 （現住所：神戸市北区） 年齢：34歳</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p> <p>農地：120a（借地 30a） 施設： ビニールハウス 1,100㎡、 直売所 96㎡</p> <p>経営内容： 施設いちご 11a、 ぶどう 55a （経営主は父親）</p> <p>労働力：両親、本人 出荷先：観光いちご園、直売所</p>  <p>いちご狩り風景</p>
<p>就農から現在まで</p> <p>2007年 離職 2007年7月 就農 2008年12月～2009年3月 新技術習得助成事業実施 （いちごクラウン加温技術） 現在に至る</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p> <p>○良かった点 自分で時間の調整ができるので、 子供の学校行事や集落の行事に参加しやすい。</p> <p>○苦労した点 足りなければ作ればよいというものではないので、注文やいちご狩りの予約をどこまで受けるかの判断が難しい。</p>
<p>農業をめざした動機</p> <p>両親が兼業農家として、ぶどう栽培を行っていたが、2004年父親が退職を機にハウスいちご栽培を始めた。 年々ハウスいちごの規模を拡大する父親から誘われて就農を決意した。</p>	<p>後輩へ贈る言葉</p> <p>天候や気温に左右されて思い通りにいかない事もありますが、良いものが出来て、お客さんに喜んでもらった時がいちご作りの醍醐味です。 何を作ってもこの点は共通だと思います。</p>